

東京ドキュメンタリー映画祭

Tokyo Documentary Film Festival

Do it

in **OSAKA**

「東京ドキュメンタリー映画祭」がついに大阪上陸！
過去2年の映画祭から話題になった作品をセレクトション
関西在住作家の特別上映や「大阪観客賞」も開催します



2020年8月29日(土)～9月4日(金) シアターセブン

映画やテレビ、ネットの垣根を越えて、ドキュメンタリーが一堂に会する場を目指し「東京ドキュメンタリー映画祭」が始まったのは、2018年のことでした。動画配信やSNS、スマートフォンの発達で、かつてなく映像製作が身近になるなか、現代アートやフェイクの手法を取り入れスタイルを追求する作品や、在日コリアンやアイヌ、基地や外国人労働者の問題といった硬派なテーマを深掘りする作品など、ドキュメンタリーの多様性や可能性を感じさせる作品が数多く集まりました。

大阪では、過去2回の映画祭で再上映が熱望された作品を上映するほか、関西に縁のある作家や作品の上映を加え、新たに大阪のお客さまが選ぶ「大阪観客賞」も設定します。劇場で魅力的な作品と出会い、監督と話し、翌年は作り手としてみなさんがこの映画祭に戻ってくる…そんなドキュメンタリーの新たな“創造の場”になることを願っています！ 佐藤寛朗（プログラムディレクター・neoneo 編集室）

調査屋マオさんの恋文
長編 ⑦
9.3ホ 11.00-



監督＝今井いおり / 2019年 / 84分

双子厩記・私小説
長編 ⑧
9.3ホ 13.30-



監督＝原将人 / 2018年 / 110分

日々変わりゆく認知症の妻を記録し続ける元調査屋・マオさんの物語。高度経済成長期にマーケティング会社を立ち上げ、猛烈に働いてきたが、いつしか家庭は崩壊、息子の言葉をきっかけに、彼は家庭再建を決意する。人生の道筋を縄文に求め、自給自足の生活を開始。田畑で米や野菜も調査することで、安定した収穫を得るようになる。そんな折、妻の縫子（ぬいこ）さんが認知症に。今度は奥さんを調査する傍ら、細やかな介護を始めた。

『20世紀ノスタルジア』などで知られる映像作家・原将人による珠玉のセルフ・ドキュメンタリー。大島渚、若松孝二など先輩映画人が亡くなる中、京都でアルバイトを転々とする原は、映画を撮れない日々にもズレンマを抱えている。妻の実家に預けている双子の赤ん坊に会うためバイクや車で九州まで通うが、思わぬ運命のアクシデントが待ち受けていた…。スマホなどを駆使し“映像の現在”を更新し続ける原将人による映画界への挑戦状。

沖繩の声を聴く
短編 ⑤
9.2ホ 11.00-



『Reunite with My Past Self in Okinawa ~沖縄で過去の自分と出会う~』
監督＝比嘉寛多 / 18分
『沖繩から叫ぶ 戦争の時代』
監督＝湯本雅典 / 61分

21世紀の難民たち
短編 ⑥
9.2ホ 13.30-



『かぞくの証明』監督＝岩崎祐 / 34分
『ビニールハウスは家じゃない (This is not a house)』
監督＝セ・アル・マムン、ジョン・ソヒ / 53分

基地問題に揺れる沖縄の近況を描いたホットな2篇。『Reunite with My Past Self in Okinawa ~沖縄で過去の自分と出会う~』では、辺野古の基地移設への県民投票を呼びかける元 SEALDs の元山仁士郎に、同じ沖縄出身の監督が密着。若者や自身の父親との対話が描かれる。『沖繩から叫ぶ 戦争の時代』では、与那国、石垣、宮古そして奄美に建設される自衛隊基地にカメラがフォーカス。基地反対闘争のさなか、南西諸島の“軍事基地化”が着々と進む姿は衝撃的だ。

近年頻発する難民や外国人労働者の差別の問題に照準を当てた2本。『かぞくの証明』は、難民申請を何度も却下されるエチオピア一家の不条理を描く。東京下町でコミュニティに順応しながら、懸命に働く姿が印象的だ。『ビニールハウスは家じゃない (This is not a house)』では、韓国の農村に出稼ぎに赴いたカンボジア人労働者が劣悪な実態を告発する。あてがわれた寮はビニールハウスで、給湯器すら無い環境に、彼女たちの怒りが爆発するが…。

日常対話
長編 ①
8.29ホ 16.00-



監督＝黄惠偵 / 2016年 / 88分 / 台湾

監督の黄惠偵（ホアン・フイチュエン）は、娘の誕生をきっかけに、親子らしい会話のなかった母親との「対話」をカメラを通して試みる。母に関する様々なインタビューから見えてきたのは、元夫のDV、セクシュアリティ、社会の抑圧など、凄まじい過去を抱えながらも健気に生き抜く母の姿だった。では母さん、娘の「私」が長年抱えてきた葛藤を今から話すね…。ベルリン映画祭でテレビ賞を受賞した、セルフドキュメンタリーの傑作。

戦後中国残留婦人考
長編 ⑨
9.4ホ 11.00-



監督＝王乃真 / 2018年 / 135分

1930年代からの国策「満蒙開拓」では、日本各地から約27万人が旧満州に渡ったが、終戦後も帰国がかなわず中国に生きた「中国残留婦人」と呼ばれる人々がいる。一人の若い日本人女性が、そんな「中国残留婦人」の老女の訪ね、彼女たちの声に耳を澄まし、過去と現在に迫っていく。「歴史」の記述では語られ難い当事者の声によって、故郷を離れて生きざるをえなかった彼女たちの記憶が切実に丁寧に綴られた、6年間の記録。

2018年
短編・中編傑作選
長編 ⑦
9.4ホ 13.30-



『凶暴なまでの沈黙』監督＝ヴァンサン・ギルペール / 2016年 / 20分 / フランス、日本
『影の由来』監督＝渡田野村 / 2017年 / 27分 / 山河の子
監督＝胡旭舟（コ・キョクトウ） / 2017年 / 57分 / 日本、中国

福島第一原発の原子炉建屋内の監視カメラがとらえた狐をモチーフに、喧噪と静寂の間を描いた『凶暴なまでの沈黙』。老人が特攻隊時代の思い出を語りだした体験を基に、写真と手紙を使い、戦死した夫に届かない手紙を書く妻の物語を創作した『影の由来』。両親が出稼ぎで祖父母と暮らす子や、障害を持つ両親を支える子どもなど、中国の山村の「留守児童」に取材した『山河の子』。2018年の映画祭における短編の代表作を網羅する。

アイたちの学校
長編 ②
8.30日 11.00-



監督＝高賢侖 / 2019年 / 99分

大阪市生野区にある朝鮮人学校の、戦前から戦中、戦後へと続く差別と抵抗の歴史をたどった作品。法の抑圧や補助金削減など、何度も閉鎖の危機に直面するも、不屈の闘志を失わず、民族教育の灯をともし続けた朝鮮学校の歴史を、インタビュー、写真、ニュース映像等を用いた綿密な調査で活写するほか、ヘイトスピーチに対する裁判闘争など、現在も描く。民族舞踊に興じ、スポーツに熱中する若者の生き生きとした姿がまぶしい。

破天荒ボクサー
長編 ⑩
9.4ホ 16.00-



監督＝武田倫和 / 2017年 / 115分

大阪帝拳ジムに所属していたボクサー山口賢一は、デビューから11連勝を果たすが、タイトルマッチを組んでもらえず、JBC（日本ボクシングコミッション）に引退届けを提出、闘いの舞台を海外に移した。海外で経験を積むうちに、日本のボクシング界の状況に疑問を抱くようになった山口は、世界タイトルマッチに再挑戦するため、袂を別ったジムとJBCに話し合いに向かうのだが…リング内外で孤独で熾烈な闘いを強いられた男の記録。

エチオピアの芸能・音楽・儀礼
川瀬慈特集
特別 民族誌映画 ①
9.1ホ 16.00-



『ラリベロッチー—終わりに喜びを生きて—』
監督＝川瀬慈 / 2005年 / 30分
『僕らの時代は』監督＝川瀬慈 / 2006年 / 43分
『精霊の馬』監督＝川瀬慈 / 2012年 / 28分

エチオピア高原を移動しながら軒先で唄い、乞い、見返りに祝詞を与える唄い手を追った『ラリベロッチー』。弦楽器マシニコを弾き語るアズマリの少年少女の姿を数年ごとに記録し、音楽職能を生きる人間の営みと葛藤を描いた『僕らの時代は』。中東から東アフリカに広がる憑依儀礼ザールにおける、人間と精霊の交感を荒々しく映し出す『精霊の馬』。気鋭の映像人類学者による珠玉の短篇集。

辺野古抄
長編 ③
8.30日 13.30-



監督＝八島輝京 / 2018年 / 132分

米軍基地の移設問題に揺れる沖縄・辺野古。監督は大学を休学し、1年間辺野古に住みこんで、住民の生活を撮影していった。農作業や仕事に従事する人、長寿を祝う民俗行事、米兵と地元民が一緒に祝う祭り…そこには当然ながら、メディアで報じられる世界とは異なる「辺野古の日常」があった。地元住民の目を通して辺野古の歴史や生活を丹念に描き、メディアや国民の関心のあり方に新たな視点を提示する、斬新なドキュメンタリー。

テレビが映す人の性
短編 ①
8.29ホ 11.00-



『出櫃 (カミングアウト) ~中国・LGBTの叫び~』
監督＝房清満 / 49分 ※劇場版
『大黒座ベイ・ブルース』
監督＝浅真 / 45分

ディレクターの着眼点が光る、2本のTV作品をセレクト。『出櫃 (カミングアウト) ~中国・LGBTの叫び~』は、中国のセクシャルマイノリティの青年が、意を決し親に告白する瞬間が捉えられるが、簡単には受け入れてはもらえず、都市と地方の意識差も含めた社会的困難が描かれる。北海道の小さな街で100年続く映画館に集う人々を描く『大黒座ベイ・ブルース』からは、ささやかだが確かな支えあいの、暖かな息づかいが聞こえてくる。

森のムラブリ
特別 民族誌映画 ②
9.3ホ 16.00-



監督＝金子道 / 2019年 / 85分

タイラオスの森で暮してきたムラブリ族は、400人しかいない狩猟採集民。消滅が危惧される彼らの言語を研究する学者・伊藤雄馬と村に入ったカメラは、定住化は進むが、互いの集団が「人食いだ」と言って対立する様を見る。インドシナ半島のゾミアたるラオスの山中で、いまだノマド生活を送る集団に接触すべく奥地に入り、世界初の撮影に成功する。そこで目撃された現代の遊牧民が抱える問題とは？

つれ潮
長編 ④
8.31月 11.00-



監督＝山内光枝 / 2018年 / 83分

「鐘崎の海で潜ってみたいね」と、対馬の東海岸・曲（まがり）集落で、82歳で海女を営む「おぼちゃん」がつぶやいた。鐘崎とは、曲の海人のルーツといわれている福岡県宗像市の集落のこと。時代を超えた“磯婦り”を実現すべく、「おぼちゃん」は女界灘を対岸へと渡る。海女に魅せられ、海女の学校も卒業した監督は、自身も一緒に海に潜り、漁の様子を撮影しながらその旅に寄り添い、海に生きる女性たちの交流をまるごと描いた。

少女たちの戦い
長編 ②
8.29ホ 13.30-



『西麻米～人の最期に付き添う女たち～』
監督＝黄威勝、賀照暉 / 2017年 / 30分 / 台湾
『巨大中国と戦う“民主の女神”～香港オタク少女の青春日記～』
監督＝中村航 / 2017年 / 59分

権力や社会に立ち向かう中華圏の若い女性たちの姿を捉えた2作。『西麻米～人の最期に付き添う女たち～』は、台湾の葬式女子集団の活動に密着。偏見の目に晒しながらも、人の最期に寄り添い、懸命に働く姿が印象的。『巨大中国と戦う“民主の女神”～香港オタク少女の青春日記～』は雨傘運動のシンボル、アグネス・チョウのプライベートな側面を丁寧に描いたテレビ作品。その後の情勢の変化を踏まえた特別版を上映予定。

金総万監督特集
特別 ①
8.30日 16.00-



『釜の住民票を返せ！ 2011』
監督＝金総万 / 2011年 / 50分
『龍王宮の記憶』（『龍王宮プロジェクト』製作版）
監督＝金総万 / 2016年 / 51分

NDS（中崎町ドキュメンタリースペース）のメンバーでもある映像作家・金総万を特集。2007年、大阪市西成区のある街「釜ヶ崎」で、大阪市に一方的に住民票を取り消された野宿者や日雇い労働者、支援者らの怒りを記録した『釜の住民票を返せ！ 2011』と、2010年8月に撤去された、大阪・桜宮にある済州島出身者の祈りの場「龍王宮」で、クッ（賽神・巫俗儀礼）を行うハルモニたちを記録した、貴重な『龍王宮の記憶』（再編集版)を上映。

発酵する民
長編 ⑤
8.31月 16.00-



監督＝平野隆章 / 2019年 / 97分

2011年4月、原発事故直後の鎌倉。かつて行われた脱原発パレードから派生し、盆踊りで平和の輪を描くことを目的とした「鎌倉イマジン盆踊り部」が結成された。踊りの活動をはじめ、生活の中に発酵の微生物の視点や、太陽系を縮小した円形の暦「地球暦」の概念を取り入れ、生活する鎌倉の人々を捉えた作品。そこには現代のせわしない直線的な時間の流れに緩やかに対抗するような、「円環する時間」が流れている。

森と農のある暮らし
短編 ③
8.31月 13.30-



『ユートピア』監督＝栗貫直 / 27分
『ビューティフル・ピーキーパー きらいな蜂飼い』
監督＝きたむらゆり / 25分
『森の守り人～イサムの場合～』監督＝中井信介 / 53分

脱資本主義的な暮らしを指向し、パーマカルチャー（自己維持可能な農業）を実践するスペインとイギリスの共同体を描いた『ユートピア』。沖縄で自閉症患者や障がい者を受け入れ、自立した生活を送る蜂飼いを通して、生きることの価値を問う『ビューティフル・ピーキーパー』。生活と家庭を抱えながら、インドネシアのカリマンタンで森林保護活動をする人々を取材する『森の守り人』など、森と農をテーマにした3作品が集結。

長居青春酔夢歌
特別 ②
9.2ホ 16.00-



監督＝佐藤零郎 / 2009年 / 69分

2002年のホームレス自立支援法施行後、大阪市では野宿者の自立支援センターやシェルターへの収容施策が進められ、公園からの追い出しが頻発。2006年は大阪城公園・鞆公園の野宿者が、世界パラ会議開催の工事を理由に行政代執行された。2007年、長居公園にあるテント村でも世界陸上開催の工事を理由に行政代執行がはじまり、テント村の住人と支援者たちは、芝居をするごとく抵抗するが…『月夜釜合戦』が記憶に新しい、佐藤零郎の初監督作品。

とりもどす
長編 ⑥
9.1ホ 11.00-



監督＝藤野知明 / 2019年 / 100分

1930年代、北海道大学の人類学者らは、浦河、浦幌などにあったアイヌ民族の墓を掘り返し、研究目的で遺骨を持ち去った。2012年、3名のアイヌが、北大に遺骨や副葬品の返還を要求して抗議、賠償を求めて地裁に提訴した。本作では、遺骨の返還を求めて闘う小川隆吉さんらの活動を数年にわたって記録。集会やインタビューで当事者たちの声を丹念に集め、遺骨を再埋葬したいと願う彼らの先祖に対する心根が少しずつ見えてくる。

アフリカを知る
短編 ④
9.1ホ 13.30-



『リアル・ギャングスターズ』
監督＝水井陽右 / 2017年 / 17分
『マッガビット～雨を待つ季節～』
監督＝松村圭一郎 / 2016年 / 28分
『トホス』監督＝村津剛 / 2017年 / 27分

ナイロビでも治安の悪いソマリア人難民地区で、ギャング化する若者取材した『リアル・ギャングスターズ』。中東へ出稼ぎに期待と不安を抱きながら、雨季を待ちわびるエチオピアの娘たちを描いた『マッガビット～雨を待つ季節～』。ベナンの憑依宗教ヴォドゥン信仰で、神として村人に愛される知的障がい者ポールや占い、祭事を記録した『トホス』。カメラを片手に果敢に飛び込み、アフリカの多様な「今」を記録した3作品。

お客さまの声で受賞が決まる「大阪観客賞」を新たに設定します！
会場で配られるアンケートに、ご覧になった作品の評価を5段階評価でお書きください。最も多くの得点を集めた作品に、大阪だけの「大阪観客賞」が贈られます（賞品あり）。

上映スケジュール

8月29日(土)	11:00 - 短編① テレビが映す人の“性(さが)” 「出櫃(カミングアウト)～中国・LGBTの叫び～」 ※2019年短編部門グランプリ 「大黒座ベイ・ブルース」	13:30 - 短編② 少女たちの戦いー台湾・香港編ー 「西素米～人の最期に付き添う女たち～」 ※2018年短編部門観客賞 「巨大中国と戦う“民主の女神”～香港オタク少女の青春日記～」特別編	16:00 - 長編① 「日常対話」
	8月30日(日)	11:00 - 長編② 「アイたちの学校」	13:30 - 長編③ 「辺野古抄」 ※2018年長編部門観客賞
8月31日(月)	11:00 - 長編④ 「つれ潮」 ※2019年長編部門観客賞	13:30 - 短編③ 森と農のある暮らし 「ユートピア」 「ビューティフル・ビーキーパー きれいな蜂飼い」 「森の守り人～イサムの場合～」	16:00 - 長編⑤ 「発酵する民」
	9月1日(火)	11:00 - 長編⑥ 「とりもどす」	13:30 - 短編④ アフリカを知る 「リアル・ギャングスターズ」 「マッガビット～雨を待つ季節～」 「トホス」 ※2018年短編部門奨励賞
9月2日(水)	11:00 - 短編⑤ 沖縄の声を聴く 「Reunite with My Past Self in Okinawa ～沖縄で過去の自分と出会って～」 「沖縄から叫ぶ 戦争の時代」 ※2019年短編部門準グランプリ	13:30 - 短編⑥ 21世紀の難民たち 「かぞくの証明」 ※2019年短編部門観客賞 「ビニールハウスは家じゃない」	16:00 - 特別② 関西在住作家～佐藤寿郎 「長居青春酔夢歌」
	9月3日(木)	11:00 - 長編⑦ 「調査屋マオさんの恋文」 ※2019年長編部門グランプリ	13:30 - 長編⑧ 「双子厝記・私小説」 ※2018年長編部門グランプリ
9月4日(金)	11:00 - 長編⑨ 「戦後中国残留婦人考 間縁・愛縁」	13:30 - 短編⑦ 2018短編・中編傑作選 「凶暴なまでの沈黙」 ※2018年短編部門奨励賞 「影の由来」 ※2018年短編部門グランプリ 「山河の子」	16:00 - 長集⑩ 「破天荒ボクサー」 ※2018年長編部門準グランプリ

各回、監督による舞台あいさつあり。トークイベントも開催予定。決定次第、映画祭のサイトやSNSで発表します。詳細は公式サイトをご覧ください。

一般 1300円 / シニア 1100円 / 学生 1000円
小学生以下 700円 / 会員 1000円
★3回券 = 3,300円 (前売あり。開催期間中にも劇場窓口にて販売します)
★映画サービスデー(9/1)ほか、劇場規定の割引・サービスデー適用あり
詳細⇒ <http://www.theater-seven.com/service.html>

公式 HP : tdff-neoneo.com
twitter : @TDFF_neoneo
Instagram : [tdff.neoneo](https://www.instagram.com/tdff.neoneo/)
Facebook : <https://www.facebook.com/tdff.neoneo/>
主催 : neoneo 編集室
お問い合わせメール : tdff.neoneo@gmail.com

映画祭運営 : 金子遊 佐藤寛朗 若林良 吉田悠樹彦 澤山恵次 柴垣萌子 中村陽奈
デザイン : 菊井崇史 WEBデザイン : 古谷里美 表紙写真 : 川瀬慈「ラリベロッチ」より

大阪市淀川区十三本町 1-7-27 サンボードシティ 5階

シアターセブン TEL:06-4862-7733

阪急十三駅西口から西へ徒歩5分

●各回定員入れ替え制●上映開始後のご入場は、お断りさせて頂く場合がございます●満席の場合は入場をお断りさせて頂く場合がございます●作品により画像、音声必ずしも良好でない場合がございます。あらかじめご了承下さい。

東京ドキュメンタリー映画祭 2020 新宿ケイズシネマにて今冬開催!

